

## 成績評価における「GPA 等」の客観的な指標の算出について

本学では「GPA 等の成績評価」を導入しています。

学修への取り組みを質的に把握するための指標となり、学期ごとに比較することで、学修した成果を判断する目安となります。本学では、学生の学修指導の客観的な指標として活用しています。

この制度を通じて、自己の履修を管理し学習成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらに勉学を意欲的に行うことが期待されます。

また GPA の評価を、特待生継続審査や奨学金採用審査などの選考基準として適応しています。

GPA は学期ごとに成績点数平均とあわせて学業成績表の下段に表示しますので確認してください。

### GPAとは

GPAは、学期ごとに履修した各科目の成績評価に対して、一定の GP(グレードポイント)を与え、その合計の加重平均を GPA として提示する1単位あたりの平均を数値で表した成績評価方法です。学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したもので、年度ごとのGPAと入学時から通算の平均GPAの2つのGPAが算出されます。本学が導入するGPAの算出式は下記に示すとおりです。

- <1>試験の点数に応じて5段階(4.0、3.0、2.0、1.0、0)の数値(グレードポイント)を設定します。なお、不合格となった科目はグレードポイントが0点となります。
- <2>各履修科目のグレードポイントに、科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものがGPAとなります。
- <3>GPA の算出基礎になる科目は「すべての科目」(ただし、インターンシップ等点数表記のないものを除く。)を対象とします。

本学成績評価		成績評価点	GP (グレードポイント)
合格	秀(S)	100～90	4.0
	優(A)	89～80	3.0
	良(B)	79～70	2.0
	可(C)	69～60	1.0
不合格	不可(無資格含む) (D)	59～ 0	0.0
認定	認(N)	なし	対象外
履修変更期間と履修科目削除期間中に取消をした科目			対象外

《GPA 値算出式》

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修科目のグレードポイント} \times \text{履修科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目(不合格科目・無資格科目を含む)の単位数の総和}}$$

(注1) GPA の計算は、小数点第2位以下を四捨五入します。

(注2) 「履修辞退」は、計算式に含みません。

(注3) 毎学期の履修登録科目において、GPA を算出します。

GPA の総合評価

GPA	総合評価
3.5～4.0	大変優秀な成績
2.4～3.4	優秀な成績
1.6～2.3	平均的な成績
1.0～1.5	努力を要する成績
0.0～0.9	より一層の努力を要する成績

参考)ある学生のGPA[例]

科目名	単位	評価	グレードポイント	グレードポイント × 単位
哲学	2	98 点(秀)	4.0	4.0 × 2 = 8.0
政治学 I	2	75 点(良)	2.0	2.0 × 2 = 4.0
数学 I	2	35 点(不可)	0.0	0.0 × 2 = 0.0
総合科目 I	2	80 点(優)	3.0	3.0 × 2 = 6.0
健康スポーツ	2	65 点(可)	1.0	1.0 × 2 = 2.0
英語 I	2	△(不可)	0.0	0.0 × 2 = 0.0
経済学入門 I	2	95 点(秀)	4.0	4.0 × 2 = 8.0
法学	2	74 点(良)	2.0	2.0 × 2 = 4.0
社会情報入門	2	92 点(秀)	4.0	4.0 × 2 = 8.0
合計	18 単位	—	—	40.0 ポイント
GPA	2.2 ( 40.0 ÷ 18 = 2.22……小数点第 2 位を四捨五入)			

## 卒業論文評価基準の指針

### 1. 評価項目と方法

卒業論文の判定に係る評価は、下表の評価項目内容について評価する。

評価項目内容	
1	卒業研究にまじめに取り組んだか（指導教員との十分な協議を含む）
2	研究の目的達成のために十分な調査等がなされているか
3	研究の目的が明確で、研究としての新規性（オリジナリティ）はあるか（先行研究の十分なレビューを含む）
4	論文が、わかりやすく、誤字脱字がなく、指定された書式に従って書かれているか
5	論文（目的から調査分析、結論までの流れ）の論理展開が明快で、不整合や飛躍はないか
6	調査結果の分析と調査分析結果の考察が十分になされているか
7	結論が社会的あるいは学術的に意義のある（有用な）知見を含んでいるか

### 2. 判定と認定単位

前項表の「評価項目内容」を総合的に評価し次の 5 段階の判定を行う。

判定	成績素点換算	認定単位	分類
S	100～90 点	4	学則上の 必修科目
A	89～80 点	4	
B	79～70 点	4	
C	69～60 点	4	
D	59 点以下	0	

### 3. その他

提出が指定された日時に遅れた場合は、評価対象外となり D 評価となることがある。  
卒業論文に関する詳細事項は、入学時に配布された学生便覧に記載されているので確認すること。

不明な点などは、専門演習担当教員もしくは教学支援部教務課に問い合わせること。

以上

アセスメント・ポリシー

本学では、大学全体及び各学部における養成すべき人材像としてディプロマ・ポリシー (DP) を定め、それに沿ったカリキュラム・ポリシー (CP) 及びアドミッション・ポリシー (AP) を策定しています。また、機関レベル・学科レベル・授業レベルの学修成果を多面的に評価して、学修成果の可視化による学修支援及び教育改善を恒常的に実施いたします。

学修成果の評価に係る質的水準及び具体的実施方法

レベル別に指標を定めて学修成果の達成状況を調査し、その質的水準を検証・評価します。

機関レベル

全学生の入試選抜から入学、卒業に至るまでの進級・退学及び卒業要件達成状況 (単位取得状況) 等の指標について、学修成果の達成状況を測定・評価します。また、卒業時アンケートによる自己評価についても、定性的な学修成果として測定・評価します。

学科レベル

学部・学科の修得単位状況・卒業要件達成状況 (単位取得状況) ・各学期の GPA と成績平均等の指標から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

授業レベル

シラバスに明記された授業等科目の学修目標に対する評価方法に従って成績評価を実施します。また、授業評価アンケート等の結果もふまえ、科目ごとの学修成果の達成状況を測定・評価します。

機関レベル (共通)

	入学前・新入生	在学生	卒業時・卒業後
大学レベル	各種入学試験 入学前教育 学修調査試験 (プレースメントテスト含む)	GPA・成績分布表 休学率 退学率 学生生活・学修に関する調査	学位授与率 卒業判定 標準修了年限内の卒業率 進学率 就職率 卒業時アンケート調査 卒業後アンケート調査

臨床教育学部 教育学科

	入学後	在学中	卒業判定・卒業時
	AP を満たす人材かどうかの検証	CP に則って学修が進められているかの検証	DP を満たす人材となったかの検証 / 満足度の検証
学科レベル	入学直後の満足調査 面談・面接 (志望理由と将来目標等)	履修登録状況 出欠状況 修得単位状況 進級状況	資格・免許取得状況 卒業単位修得状況 卒業論文評価
授業レベル		各授業の到達目標 成績評価 学生授業アンケート調査 出欠率	

臨床教育学部 児童教育学科

	入学後	在学中	卒業判定・卒業時
	AP を満たす人材かどうかの検証	CP に則って学修が進められているかの検証	DP を満たす人材となったかの検証 / 満足度の検証

学科レベル	入学直後の満足調査 面談・面接(志望理由と将来目標等)	履修登録状況 出欠状況 修得単位状況 進級状況	資格・免許取得状況 卒業単位修得状況 卒業論文評価
授業レベル		各授業の到達目標 成績評価 学生授業アンケート調査 出欠率	

経営教育学部 経営教育学科

	入学後	在学中	卒業判定・卒業時
	AP を満たす人材かどうかの検証	CP に則って学修が進められているかの検証	DP を満たす人材となったかの検証／満足度の検証
学科レベル	入学直後の満足調査 面談・面接(志望理由と将来目標等)	履修登録状況 出欠状況 修得単位状況 進級状況	資格・免許取得状況 卒業単位修得状況 卒業論文評価
授業レベル		各授業の到達目標 成績評価 学生授業アンケート調査 出欠率	

その他共通ポリシー

1. 個々の授業科目について、出席状況、試験やレポート等の成績、担当教員が必要と認める学習作業の結果などを総合して合否判定を行う。
2. 各授業科目の成績評価方法は、「授業概要(シラバス)」に掲載している。
3. 試験・成績に係る詳細な事項については、「1 年次に配布した学生便覧」に掲載している。
4. 年間履修上限単位数は 48 単位とする。
5. 前年度の GPA は、派遣留学選考、授業料減免特待生年次審査、卒業判定などの各選考の指標とする。
6. 定期試験は、筆記、レポート、実技等の方法で実施し評価する。① 当該授業科目について、授業回数の 3 分の 2 以上出席していない場合、定期試験を受験できない。② 授業時間内に行う授業内評価については、科目担当者の指示に従う。③ 定期試験がレポート提出をもって行われる場合も、授業回数の 3 分の 2 以上出席していない場合はレポート提出資格を失う。
7. 卒業論文については、各教員が開講している専門演習 I・II を 3、4 年継続して受講し、教員の指導を受けなければならない。指定された日時に卒業論文提出後、卒業論文評価指針により評価し総合的に判定する。

以上